

交流のひろば

情報をお寄せください。市役所広報広聴課 890-6642へ。



まち News のニュース



西善町下両家

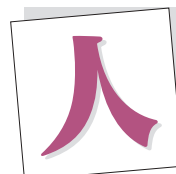
朝日を浴びて 正月マラソン

一月五日、西善町下両家で正月マラソン大会が開催されました。町民が楽しみにしている行事で、今回が十二回目。小学生からお年寄りまで百五十人が参加しました。同町公民館の庭でラジオ体操をした後、午前九時に一斉にスタート。参加者は朝日を浴びながら、約三のコースを自分のペースで楽しそうに走ります。親子で語り合いながら走る姿も見られました。狩野重幸同自治会長は、「健康への関心が高まっていますから、参加者も多いです。スポーツを通して親ほくを図れるので、大きな意義がありますよ」と話していました。

大会準備に全力尽くして



群馬国体フィギュア技術代表補
吉川 寿さん(69)
関根町



ピープル

一月二十五日から関根町の県総合スポーツセンター・アイスアリーナで始まる、群馬国体フィギュアスケート競技。その競技役員・技術代表補を務める。「技術代表は日本スケート連盟の理事が競技委員長として兼

務します。代表補は地元から選ばれ、競技のすべてを統括する仕事です。いわば、裏方仕事のため役。皇太子殿下ご夫妻がご覧になることですし、素晴らしい大会になるよう、準備に全力を尽くしています」

現在、県スケート連盟の副理事長、フィギュアスケート部長を務める。また、わが国でも数人しかいない国際スケート連盟の審判員として、長年にわたり国際大会で活躍してきた。

「高校生でフィギュアスケート始めてから、大学・就職後と競技を続け、国体でも何度か入賞しました。二十四歳で選手

としては引退し、その後、先輩の誘いで審判になりました。リレハンメル五輪でジャッジしたことが、一番の思い出ですね」

高校生当時、まだあつた県庁のお堀で友人と滑ったのが、スケートを始めたきっかけ。赤城山の覚満淵へも通ったという。

「結氷後、誰も足を踏み入れていない氷の上を滑り、自分の好きなように弧を描いて、本当に気持ちよかったです」

中学生の強化選手を指導するため、週一、三回、関根町のリンクへ通う。来年、本市で開かれる全国大会へ出場させることが、今の目標だ。

まえばしの今と昔

200種
咲き競う
2,000本が

ばら園



ばら園は昭和四十六年に開園(写真上、写真下は現在)。二百種、千本のバラが春・秋に咲き競います。総面積は四万五千平方。同四十九年以降、香りの森や熱帯植物温室、緑化相談所なども設置され、都市緑化活動の拠点として、大きな役目を果たしています。